



発想の転換が世界に類をみない耐震マットを誕生させた

転倒防止具というと、固定するものというイメージが強いが、固定するとなれば移動ができない等デメリットもでてくる。その点、マットならその心配もない。

もともと工学部や化学部畑出身でもない氏は、専門書を16冊購入。読みあさり知識を吸収していった。また、それを実際に試験するため、試作品を作っては実験していった。そしてできたのがウレタンに化学薬品を加えたもので、震度4程度なら固定できた。だが、タンスが飛ぶほどの揺れ、震度7には耐えられない。

「妻が貯めていた老後資金を相談もせずに商品開発に使い、とにかく開発を続けていました。妻にはいろいろ言われましたが、途中でやめることなんて出来ませんでした」(小玉氏)。

何度やってもうまくいかない。そんなある日、飲食店でコップとコースターがくっつく現象を見た。氏は「これだ」と思った。

コップとコースター=家具とマットの間を真空状態に近づけることで、求めていた固定につなが

るのではないか。それにはまず分子の構造を細かくしなければならぬ。早速、ウレタン樹脂にある薬品を加えると、思った通り、細かな網の目状の分子構造に変化した。さらに、出来上がった素材は震度7に耐え、一般財団法人日本品質保証機構のテストも1回で見事クリア。そして、念願の耐震マット「プロセブン」を商品化することができた。

『プロセブン』の大きな特徴はなんといっても、手軽さだ。しかも、1枚数千円という手頃な価格である。発売以降、順調に売れ行きを伸ばしてい

た。さらに、引越し業界のトップ、アート引越センターに採用され、知名度も大きく上がった。

「新潟の中越地震では、アート引越センターさんで引越されたところのタンスは1棒も倒れませんでした。3月に起こった東北地方太平洋沖地震でも、アート引越センターさんの社長の元に耐震マットを使用して助かったというお礼がたくさん届いたと聞いています」。

“商品は使う人の安心と便利さが命”と小玉氏は語る。耐震マットはその言葉通りの商品と言えるよう。



プロセブン株式会社

心のつながりから生まれた商品が、人々の安全&安心な暮らしをサポートする。

天災は人々に大きな被害をもたらす。いかにして身を守るか。今年3月の東北地方太平洋沖地震は、改めてそれに気付かされた。大阪市天王寺区に本社を置くプロセブン株式会社は、震度7の大地震にも耐える「耐震マット」を開発、販売している企業である。昨今では、AV機器の転倒、横滑り防止マットや船舶備品の転倒防止マットなども手がけている。地震大国と言われる日本において、同社の存在意義はますます大きく、商品は今や必要不可欠なものといっても過言ではないだろう。今回は大ヒット商品「耐震マット」誕生に秘められた企業ヒストリーを紹介する。

親友の遺児と約束した大地震に負けない商品を探し求めて

人気商品が誕生する時、そこには秘められたストーリーがあるものも少なくない。プロセブン株式会社の耐震マットは、代表取締役・小玉誠三氏と、親友の家族の間で交わされた約束がきっかけとなって生み出された製品である。

1995年1月17日に起こった阪神・淡路大震災により、20数年来の友人をなくした小玉氏。その時の様子を遺児に聞くと、タンスが飛んできて友人の頭に直撃し、亡くなったとのこと。倒れたのではなく、飛んできた。当初は信じられなかったが、他の友人や知人の話や実験などにより、強い震度だと大きな家具も飛ぶことがわかった。さらに、約100kgのタンスだと、衝撃度は1トンを超すことも確認できた。

「今の世の中、タンスやテレビを留めるものがないはずはない。お父さんのような犠牲者が出な

いために探してくる」と残された友人の娘さんたちと約束した。

すぐに見つかると思っていた「転倒防止具」だったが、意に反しなかなか見つからない。唯一、イギリスに耐震マットなるものがあり、取り寄せてみ

たが、耐震強度は震度1。これでは実際には役に立たない。ならば自分で作るしかない。それが業界内外で注目される耐震マットづくりへのきっかけだった。



手抜きという言葉はない

期待以上のものを作ることが使命

現在、各省庁には入札資格があり、これは言い換えれば性能が基準を超えていることの証でもある。ただ、そこには常に技術開発を続ける企業の姿勢があることも忘れてはならない。

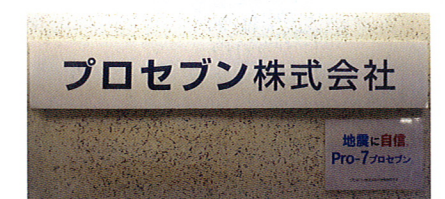
耐震マットも改良を重ね、既に13回。最近では植物油を原料にした「バイオマス耐震マット」を開発した。これは、石油製品である現行品に比べ、環境負荷が低く、さらに耐震性能は約10%高く、耐熱性にもすぐれている。

また、これまでの技術とノウハウを生かし、『テレビ転倒防止マット』や『ブルーレイディスクレコーダー横滑り防止マット』なども開発・販売している。この他、高波による船舶備品の転倒を防ぐ『船舶用マット』といった商品もある。

「ニーズ以上のもの、想像を超えるもの、100%

以上のものを作ること心掛けています。よいものを世にだすためには、手抜きは絶対してはいけません」。

価値ある商品のバックグラウンドには、社会に役立つ商品を、という人と企業の思いが息づいている。



プロセブン株式会社

本社 / 〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷町3番19号
Tel. 06-6191-3810 Fax. 06-6191-3803

東京営業部 / 〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目3番2号
神谷町アネックス4F
Tel. 03-6459-0400 Fax. 03-6459-0401

大阪営業部 / 〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷町3番19号
Tel. 06-6191-3800 Fax. 06-6191-3801

代表取締役社長
小玉 誠三

